



実用新案登録願 願書 3 号 出納

昭和 54 年 9 月 4 日

特許庁長官殿

1. 考案の名称

電気掃除機

2. 考案者

住所 大阪府門真市大字門真1006番地  
マツシタデンキサンギョウ  
松下電器産業株式会社内  
氏名 三 木 宏

3. 実用新案登録出願人

住所 大阪府門真市大字門真1006番地  
マツシタデンキサンギョウ  
名称 (582) 松下電器産業株式会社  
代表者 山 下 俊 彦

4. 代理人

大阪市西区立売堀1丁目6番17号  
住所 〒550 大阪府大阪市西区阿波座南通1丁目71番地  
アマビル 電話大阪 06 (532) 4025 (代)  
氏名 (6308) 弁理士 森 本 義 弘

5. 添付書類の目録

(1) 明 細 書 1 通 (4) 願 書 副 本 1 通  
(2) 図 面 1 通  
(3) 委 任 状 1 通

54-122608

方式審査  
40744

明 細 書

1 考案の名称

電気掃除機

2 実用新案登録請求の範囲

1 一端開放の集塵ケースの開放面に、フィルターを有する隔壁を着脱自在に取付け、隔壁の外側に吸引装置を設け、該隔壁に集塵ケース内にノ字挿入開口する吸気口を設けたことを特徴とする電気掃除機。

3 考案の詳細な説明

本考案はポリ袋等の不通気性集塵袋に塵埃を収納する電気掃除機に関し、廃棄を容易にすることを目的とする。

従来、集塵箱内側にポリ袋を入れ、ポリ袋内にたまつた塵埃を廃棄する掃除機においては、吸気口が集塵ケース本体に設けられている。しかし、吸い込みが不能となる程度まで吸い込んだ状態では、塵埃は集塵ケース内だけでなく吸気口の中にまでびつしりと吸い込まれ、このような場合、吸気口まわりの塵埃はポリ袋内に入らず、集塵ケー

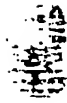
スを開くと、外部にこぼれ落ちることがあつた。

本考案は上記従来の欠点を解消したものであり、以下その一実施例を図面に基づいて説明する。

(1)は上方開放の円筒状の集塵ケースで、開放面は中央にメインフィルター(2)を有する隔壁(3)で閉塞されている。隔壁(3)は外周に取付けられたパッキング(4)で集塵ケース(1)の上縁(1a)に接当している。隔壁(3)の外周部にはエルボ状の吸気パイプ(5)が固着され、吸気パイプ(5)の集塵ケース(1)内の吸気口(5a)は集塵ケース(1)の接続方向に開口している。メインフィルター(2)の外周にはプレフィルター(6)が配着され隔壁(3)に取付けられている。(7)は吸引装置として設けられた真空ポンプ付モータであり、カバー(8)のモータカバー部(9)に収納されている。モータカバー部(9)には排気口(10)が設けられている。(11)はモータ(7)とメインフィルター(2)の間に設けた高捕収効率の2次フィルターであり、モータ(7)の吸気側に対して気密なパッキング(12)を有し、外周はカバー(8)により閉塞され、隔壁(3)とはパッキング(14)で気密に接している。カバー(8)は尾

錠10で集塵ケース(1)に着脱自在に取付けられる。  
10は集塵ケース(1)の側壁に開通させたバイパス通  
気路であり、カバー(8)内に開通するバイパス通気  
路11と接続される。集塵ケース(1)のバイパス通気  
路11の入口部はウレタン等のフィルター12で閉塞  
されている。13はフィルターカバーである。14は  
集塵ケース(1)に収納され上端で取付けられた不通  
気性の集塵袋であり、ポリ袋等からなる。

上記構成の作用につき説明する。吸気パイプ(5)  
より吸引された塵埃は、プレフィルター(6)とメイ  
ンフィルター(2)により空気と塵埃に分離される。  
分離された塵埃は集塵袋14にたまり、空気はメイ  
ンフィルター(2)を通つて2次フィルター(11)を通過  
し、モータ(7)の真空ポンプにより排気口10から排  
気される。集塵袋14にたまつた塵埃は、尾錠10を  
外した後、集塵ケース(1)から隔壁(3)を取り外し、  
集塵袋14を取り出して廃棄する。なお、バイパス  
通気路1111により、集塵袋14の背面の気圧は集塵  
ケースの気圧より減圧されるので、集塵袋14がメイ  
ンフィルター(2)に吸付けられることはない。



ここで、吸気パイプ(5)は、メインフィルター(2)を有する隔壁(3)に取付けられているので、塵埃を吸い込まなくなるまで吸込ませても、塵埃は集塵ケース(1)内の集塵袋(4)の中に納まり、集塵ケース(1)を開いても塵埃が落下することがない。また、吸気パイプ(5)が隔壁(3)側についており、集塵ケース(1)側にはつ<sup>い</sup>いていないので、吸塵ホースを抜き取<sup>り</sup> / 字挿<sup>い</sup>らなくても、隔壁(3)を外して集塵ケース(1)ごと塵埃を捨てに運搬できる利点がある。そのため、特にサイクロン型掃除機等の大型掃除機のポリ袋ごみ処理方式として有効である。なお、家庭用丸形掃除機やシリンダ形掃除機にも適用できる。

吸気パイプ(5)を本実施例のように、集塵ケース(1)の接合方向に開口するエルボ状とした場合は、旋回流が生じるので、プレフィルター(6)に目詰りを起させる絡ごみを吸気風速により吹き飛ばす効果を有し、プレフィルター(6)が目詰りを起こさず、絡ごみの付着も生じにくくなる等の効果を有する。

本考案は以上説明したように吸気口を隔壁に設けたので、塵埃の吸込み量が多くなつても確実に

収塵袋に納めることができる。

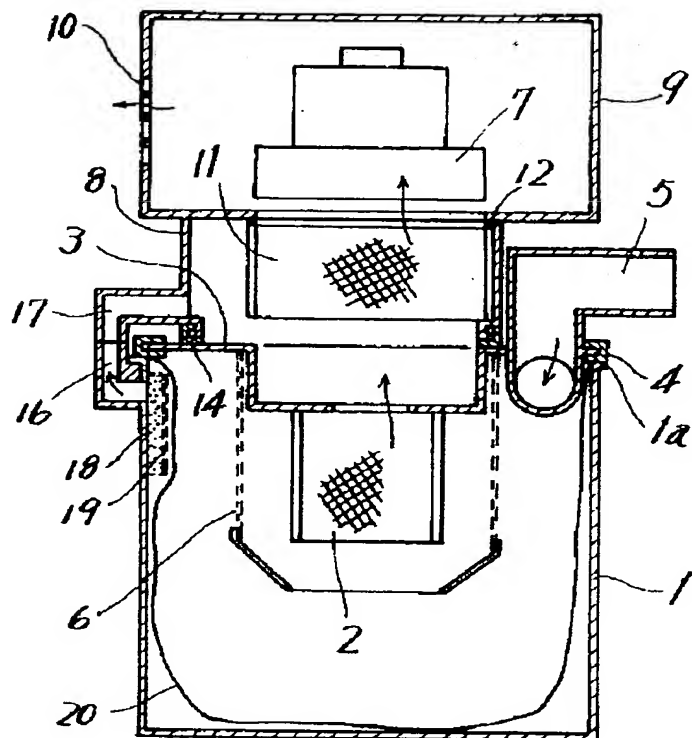
#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示し、第1図は縦断正面図、第2図は斜視図、第3図は部分横断面図である。

(1) … 集塵ケース、(2) … メインフィルター、(3) … 隔壁、(5) … 吸気パイプ、(5a) … 吸気口、(6) … プレフィルター、(7) … モーター、(8) … ケース、(10) … 排気口、(10 (17) … バイパス通気路、(20) … 集塵袋

代理人 森 本 義 弘

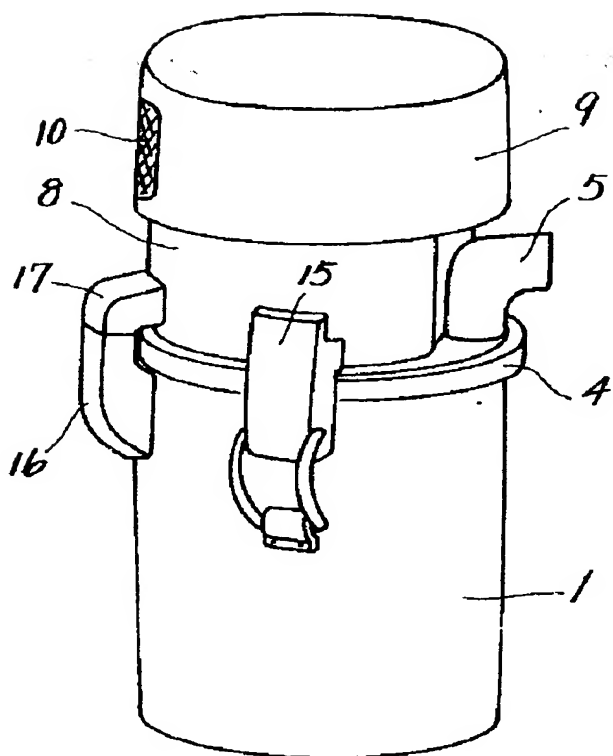
第 1 図



1/3

代理人 森本義弘

第 2 図

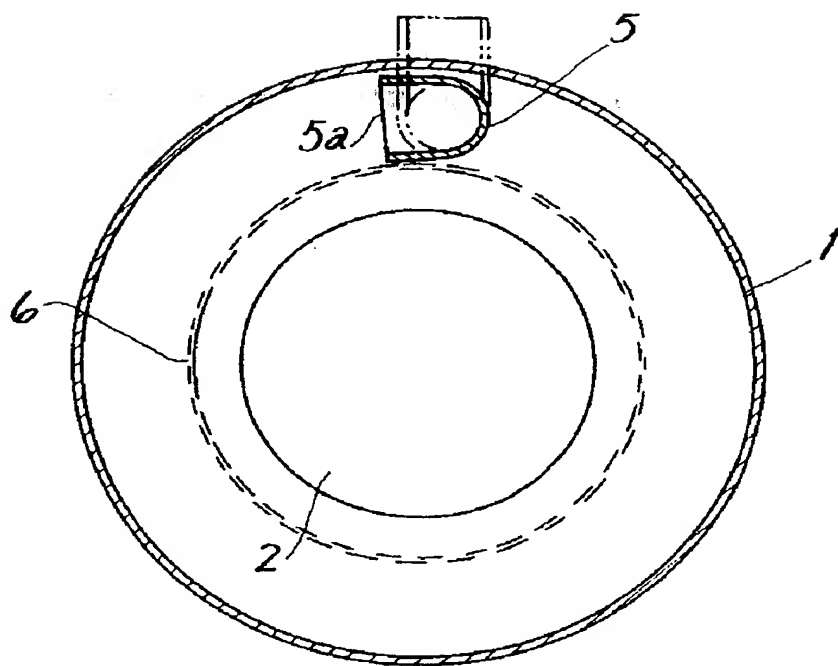


2/3

代理人 森本義弘



第 3 図



3/5

代理人 市 井 義 弘